



〒892-0841  
鹿児島市照国町13-42  
カトリック鹿児島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間〒共1100円

道 標



# 神のことばを体得する

## 鹿児島市で聖アンデレ福音宣学校研修会

五月八日(金)から十日(日)まで、教区本部で聖アンデレ福音宣学校の研修会が開かれた。聖アンデレ福音宣学校は一九八〇年にメキシコで始められたもので、宣教する信者を養成する機関。現在六十か国以上で二千校以上が設置されている。



講師の指導にも熱気いっぱい

今回来鹿したのは講師としてプラドフロレスさん(メキシコ)とアンジェラさん(ブラジル)、これに通訳のロサさん(ペルー)と

日本国籍)の三人の信徒。プラドフロレスさんはこの学校の創立者の一人である。

研修会への参加者は教区内外から四十二人。プログラムは金曜日の夜から日曜日の午後三時まで。参加者は十個の異なるテーマについての講話を聞き、歌や折り、種々の道具を使った体験など、いわば実験室に入ったような状態で体験的にその内容を習得するといふもの。今回は第一段階の一番目のテーマ「新しい命」だったが、全体では三つの段階がありそれぞれ七つのテーマが準備されている。

参加者の多くは「頭では理解しているテーマだったが、罪のゆるしなど体験として分かった」とか「結構ハードなスケジュールだったが少しも疲れなかった」などと語り語り、

喜びと感謝を口にしていた。

## 十一月に第五回アジアニューズデー

### 参加者募集

「アジアニューズデー」(AYD)は、アジア二十か国からカトリック教会の青年代表二千人が集い、ホ

スト国の文化・社会と教会の福音的な取り組みに触れながら、典札、体験学習、ホームステイを通して文化

教区としては今後、宣教奉仕者の会のメンバーを核にして、この研修会で学んだことをどのように他の人に伝達できるかについて話し合いを継続していくことにしている。

六月がどうして、結婚月間(結婚するには一番人気の月)なのかは分かりませんが、ザビエル教会では六月のすべての週末に結婚式が予定されています。

教会は初代教会の頃から、結婚は神が制定した制度なので神聖なものであると教えています。当時ローマ法では認められていなかった自由民と奴隷の身分の人の結婚を教会が認めただけではないことを教えるためでした。

## 新風

### ジューンブライド

「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体になる」(創世記二章24節)この聖書の言葉がそ

目的を端的に示していると思います。結婚というのは当事者が両親から独立して、新しい所帯を持つこと、そしてその目的はひとつになることです。すよ、ということ。両親から離れて当事者がお互いに

その歴史を見れば分かります。夫婦がひとつになるための確実な根拠として聖パウロは、キリストと教会の関係を説明しています。エフェゾの信徒への手紙第五章21節から33節をゆっくりご覧ください。(H・N)

交流し、八日間共に祈り、共に学び合う青年たちの集い。第五回目となる今年のは、「アジアの青年たちよ、集い、みことばを分かち合い、エウカリスチアを生きよう」のテーマのもと十一月二十日から二十七日までフィリピンで開催される。

日本からの参加者は二十五人で、櫻井尚明神父(福岡教区司祭)が同行する。対象は十八歳(大学生以上)から三十五歳までで、多少の英語力が必要となる。参加費は二万円程度(四月現在)で、交通費は各自負担となっている。申込締切は七月三十一日(金)。参加希望者は、カトリック中央協議会HPから申込用紙をダウンロードし、ポートのコピーとパスポートサイズの顔写真二枚を添えて、カトリック中央協議

## 和善の聖書二 教区本部で始まる

松田清四朗神父(教区本部)の「和善の聖書」の第二回目のシリーズが五月十五日(金)から始められた。テーマは「わたしがしたように：あなたがたもなさい」(ヨハネ13:34)。今回の講座は、シリーズの月曜開催と異なり毎週金曜日午前十時から、七月末まで教区本部二階会議室で開催される。

受講希望者は聖書と筆記用具(蛍光ペンを含む)、付箋を持参のこと。

ひとつになる。結婚の素晴らしさを考えるとき、つまり離れてからひとつになる「別れと出会い」というこの動きが人々の感動を呼ぶのではないかと思います。

人祖アダムとエヴァの犯した原罪以来、人は互いにひとつになることの難しさを経験してきました。夫婦喧嘩、離婚という日常茶飯事から、戦争という人間の罪過にいたるまで、

## YET

小さな子どもたちが大勢集まるサークルに行く子どもたちの成長と心の葛藤など見られて楽しい。ある日は息子・寛大が遊んでいた遊具は、近くにいた子に見事に略奪された。悲しそうな顔で佇んでいるその姿は憐れだが、私の子だ、いざれ奪い取る側に回るに違いない▼その証拠に息子は、泣きそうな顔でも決してその場を離れようとはしない。闘いを挑むわけではなく、気の弱そうなどころは見せながらも虎視眈々とそのがん具が手放されるのをじっと待っている様子だ▼そんな息子が頻りにしてくるのは、口に入れた食べ物を吐き出してこちらの口にも押し込むこと。それも決まってバナナやキュウリなど息子の大好物はかり。人前ではちよつと困った行動。でもある日「これ美味しいよ!パパ食べて」と言っているのだと気づくことで、この子の持っている優しさに触れることができ、嬉しく思った▼まだ手に握っている食べ物がなく、自分が口に入れたものが間違いない美味いからと口に押し込もうとするチビ。清潔感とはほど遠い行動だが、なんとなくそれが誇らしく思えるこの頃である▼そして恥ずかしいことだがこちらは小さい頃、教に限りのある食べ物に唾をつけ「自分の物」と宣言していたことを思い出した。



# 宣教師たちの遺業に感謝

## 大口教会が献堂五十周年を祝う

昨年十二月に教会献堂五十周年を迎えた大口教会

では、五月十日(日)午後、郡山司教司式でその記念ミサをささげ、その後の祝賀会で大勢の信者や地元の人々と喜びを分かち合った。



感謝の気持ちが溢れたミサだった

大口における教会の歩みは、奄美から疎開してきた信者たちによって一九四五年(昭和二十年)頃に始まった。教会のなかつた大口に宣教師が足を運ぶようになったのはそれから十年後、すでに教会のあつた出水

からレデンプトール会のドイツ人宣教師たちが駆けつけてきた。来日間もないヤロシユ神父らレデンプトール会の宣教師たちは、日本語は十分とは言えなかつたが、熱い情熱をもって信者たちに接していたという。そのため求道者が増え、教会建設に踏みきり、一九五八年十二月二十一日、「至聖なるイエズスの聖心」を保護の聖人とした大口教会が献堂されたのだ。五月十日(日)にささげられた献堂五十周年の記念のミサには、郡山司教をはじめ二十五人の司祭、そして県内外各地から四百人もの信者たちが駆けつけ、教会の基礎を築いてくれた人々に感謝の心を表すとともに今後の飛躍を誓った。

ミサ中説教した郡山司教は、教会献堂当時の宣教師の活躍を振り返り、現在を「再宣教師の時」と表現した。その上で、個人個人の中で、まだ福音の光に照らされていない部分へ宣教しようとメッセージを送った。

ミサ後は、教会の庭で祝賀会が開かれた。その席では伊佐市の隈元新市長も祝辞を述べると、教会が、また教会を支えてきた大口明光学園が地元で心から受け入れられていることがうかがい知れる心温まる集いとなった。

### 教区からも巡礼団

#### 乙女峠祭り

毎年五月三日に津和野で開かれる「乙女峠祭り」に鹿兒島からも二十人ほどの巡礼団を組織し参加した。一行は五月二日朝、ザビエル教会を出発し、独自のなデ

ミサ後は、教会の庭で祝賀会が開かれた。その席では伊佐市の隈元新市長も祝辞を述べると、教会が、また教会を支えてきた大口明光学園が地元で心から受け入れられていることがうかがい知れる心温まる集いとなった。

- ### 6月の会と催し
- 7日(日) 三位一体の主日
  - 13日(土) 泉 浩二神父、東 研神父霊名(アントニオ)
  - 14日(日) キリストの聖体
  - ▼地区財務委員会・教区本部・14時
  - 19日(金) イエスのみ心
  - ▼エルネスト・カスグレン神父命日(フランシスコ会・一九七九年)
  - 21日(日) 年間第十二主日
  - ▼フィリピンフェスタ・ザビエル公園・8時30分
  - ▼奄美の宣教師牧を考える会
  - ▼典礼研修会
  - 23日(火) 奄美例会
  - 24日(水) 洗礼者聖ヨハネの誕生
  - 28日(日) 年間第十三主日
  - ▼パウロ年閉年ミサ・カテドラル及び名瀬聖心教会・14時
  - 29日(月) 聖ペトロ 聖パウロ使徒
  - ▼「霊名がパウロの司教・司祭」糸永真一司教、小隈憲士神父、アン神父、坂本進神父
  - ▼「霊名がペトロの司祭」美島春雄神父、竹山 昭神父、永山幸弘神父
  - ▼教区司祭会・教区本部・16時
  - ▼レデンプトール会例会
  - 30日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時

### 司教執務室便り

#### 小さな文化交流

先月八日にサンミ神父さんが帰国した。二十年前、標高千五百メートル、北ルソン高地の村パリーナでの叙階式に招待された。鹿兒島に来てから時々手紙やメールが届くようになった。去る三月十九日、ヨセフ様の祝日に学校創立七十五周年をお祝いするのだという。ディノ神父さんと二人でお祝いした。そして、司祭叙階二十周年のお祝いに鹿兒島に招待した。日本はもちろん初めて。すべてが新鮮。中でも彼の目を釘付けにしたのは店やレストランでの接客態度。「いらつ

しゃいませ!」「私たちの店にようこそ」と歓迎しているのだと言ったら感心したようにじつと眺めながら小さな声で「レスペクトゥフル(敬い深い)!」船やバスの乗り降りにも必ず声がかかりそのたびに「レスペクトゥフル!」日本ではお客様は神さまという言葉があると教えたなら大きく頷いていた。どうかすれば「ぶつきらぼう」「形式的」などと批判的になりがちなボクには彼の反応がとても印象的だった。実は「尊敬を受けている」ことに鈍感になっていくのが身を恥じた。二週間の滞在で彼に学んだことの一つだ。「いらつしゃいませ!」「よろしくお願います!」今度からそう言うてみようかな。

日本の食事の味はきつと物足りなかつたと思うが全く好き嫌いせずに出されるものを喜んで口にしてくれた。「日本のものはなんでもすばらしい!」お互いよく食べよく飲んだ。しかし、小さな文化交流の後に待っていたのは悲しいニューだった。小教区で台風のため四人の信者が亡くなったという。鹿兒島での楽しかつた二週間の甘美な思い出が灰色の現実に染まつた。一日も早く旅の思い出を楽しく語れる日を祈りたい。そして、サンミ神父さんの旅の話聞くこともなく召された皆さんに永遠の安息を。



### パウロ年閉年ミサ

- 6月28日(日) 14時
- 鹿兒島カテドラル・ザビエル教会
- 名瀬聖心教会
- 7月5日(日) 10時
- 平土野教会(徳之島)
- このミサの中で、祈りで満ちた「パウロ年(二〇〇八)祈りで巡礼」を奉納します。お一人何枚でも結構です。

### 納骨堂について意見調査

鹿兒島市内六つの教会の代表で組織される「納骨堂について考える会」は、カテドラル建設計画当初から要望のあつた納骨堂建設についてのアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、納骨堂の必要性を問うものから、その設置場所、使用権料についてなど。考える会ではこれらの調査結果を早急にまとめ今後の資料にしたいとしている。

### 短信

#### ▼スピリチュアルケアワー

五月二日(土) から六日(水)まで「人間関係とコミュニケーション・傾聴」をテーマにしたキツペス神父講師による研修会が教区本部で開かれ、県内外から十人が学習した。

#### ▼癒しと祈りの集い

五月十八日(月) からザビエル教会ホールで坂本進神父(種子島)による月一回の勉強会が始まった。

# 信仰と漢字(七)

純心学園 岡 俊郎

腰骨ぞ息をととのえ肚(はら)座るやる気が育つ生徒と共に

立腰教育で北九州の明治学園に今年も出張しました。腰という字の示す通り、肉月に要、体の肝心要なんだなあ〜と生徒に沢山教えて頂きました。

五月七日、八日と中三と中二の男女別のクラスに五十分ずつ八回の授業を「腰骨!息!丹田!」と自分に言い聞かせ、身に付くようにと一所懸命にやりました。

授業の始めに「勉強って何ですか」と質問します。すると生徒は男女ともに答える必要なしの顔をします。「点数を上げる」といふことだと思ってるのでしよう。僕も中学校の時には、そう思っていました。試験の点数を一点でも上げて、成績優秀として、いい高校、いい大学に入らなくちゃと自分に言い聞かせていました。と自分で答える始末でした。生徒は当たり前だと言わんばかりの顔で表情一つさえ変えずです。ただ目だけは、今ごろ気づくのでは遅いねと言わんばかりに「ご苦労さん、お年寄りの神父さんや。今からでも頑張つて

ね」と私に善意ある忠告をしているようにも思えました。私は「勉強とは、やる気を身に付けること。字の示すとおり」と肚のそこから力のこもった声で言い聞かせました。

終戦の年に中学一年でした私は「勉強しなさい」とは言われませんが、テストの点数を気にする母ではありませんでした。食料難の時代に、女手で畑の開墾、唐芋作り、農作業で、子どもたちにしつかり食べさせてくださいました。町に住んでいましたので、畑仕事の毎日は堆肥を背負って一歩一歩しつかりと坂道を上って行く母でした。その後ろ姿を仰ぎ見た私の心に

「パウロ年」宣教の歩みたどる日々光るまなざし苦境の奥に  
鹿兒島 前田 儀子  
夕陽射す聖堂に祈る吾が横に亡き妹寄り添う如し  
春疾吹き去りし庭に乳色の薔薇の花片あまた散り敷く  
鹿兒島 春山マリ子  
晴れ渡る空に人似る我が思い今日も楽しき一日となれ

は、生きるとは「やる気だ」勉強こそ本当に生きる姿ではないか、と教えて頂きました。本気で一所懸命、一日一日を生きて抜いて生涯をまっとうした母の生き様は、信仰の恵みによって永遠の命へと芽育まれました。神様とも親子の道になる、信仰のすばらしい働きを毎日噛みしめた一生だったと、今、聖母マリアと一緒にいる母に「やる気を一杯ください」と心から願っています。現実には体で生きている人間の救いになるのです。求め続けることは永遠の命の働きになるでしょう。この救いの人生の意味を勉の字が教えてくれます。

「勉」の力は力(りき)む、努力する意味である。免は出産時の陣痛の努力の意味である。現在分娩の意が脱落して努力、全力を傾けて何かをする意だけになり

ました。母親の生む力は生きる力として子どもに伝わる。具体的に毎日の生き様は生き活きとやる気一杯、

赤ちゃんが、生まれて来て最初に発する「おぎゃー」という大きな泣き声、それをあやす母親の声、音を聞きながら、育ち、お腹が空けば「泣き声」で母親に意思を伝える。赤ちゃんが泣くのは、生きるために空腹を満たす必要があるからである。そして、成長するにつれて、母親のこぼれを真似て、鳴き声が意味を持つ「ことば」となり、お互いの意思が通じ合うようになるには、永い時間を要しない。ことばは自分の意思を母親に伝えるための方法で

はあがある、自分の意思をすべて完全に伝えることはできない。赤ちゃんことばから幼児語、そして学校へ行くようになってからは、母親のことばだけではなく、先生のこぼれなどで、語彙が急速に増加してゆく。日本人であれば日本語、またはその土地の方言を覚えて行く。マスコミなどを通して、知識も情報も大量に入手することができるようになる。

イエス・キリストもマリアから生まれて、おそらく同じような経過を辿ったのであろう。そして成長してから多くのことば「みことば」を残した。ただその話された「みことば」は、へ

## 文芸

純心学園 川上 和

短歌  
「パウロ年」宣教の歩みたどる日々光るまなざし苦境の奥に  
鹿兒島 前田 儀子

夕陽射す聖堂に祈る吾が横に亡き妹寄り添う如し  
春疾吹き去りし庭に乳色の薔薇の花片あまた散り敷く  
鹿兒島 春山マリ子

晴れ渡る空に人似る我が思い今日も楽しき一日となれ

## 文芸

純心学園 岡 俊郎

短歌  
貧しさは富を分けると字に学び母の生き様我も引き継ぐ  
鹿兒島 徳永ノブ子

春風や野外で祈る復活祭  
鹿兒島 春山マリ子  
散歩道花摘み踊る春淡し  
純心学園 川上 和

つりがね草「かの丘こえ」の鐘に似て  
純心学園 山頭 信子  
復活祭教会の庭をつばめ飛ぶ  
国分 政ノブ子  
聖堂に指定席あり百合の花

## みことばシリーズ(日)

### みことばを食べる

教区助祭 四條 淳也

仕合わせな人間として神の親心を味わうでしょう。合掌・感謝 アーメン

はあるが、自分の意思をすべて完全に伝えることはできない。赤ちゃんことばから幼児語、そして学校へ行くようになってからは、母親のことばだけではなく、先生のこぼれなどで、語彙が急速に増加してゆく。日本人であれば日本語、またはその土地の方言を覚えて行く。マスコミなどを通して、知識も情報も大量に入手することができるようになる。

「みことば」は、新約聖書について言えば、ほとんどがギリシア語で書かれたものを、日本語に訳された「みことば」であるため、例えば「心の貧しい人々は幸いである、天の国はその人たちのものである」(マタイ)のように、「心が豊かでない貧しい」と受け取られ、真意が伝わらない「みことば」は少なくない。また旧約聖書には「彼はわたしに言われた。『人の子よ、目の前にあるものを食べなさい。この巻物を食べ、行ってイスラエルの家に語りなさい』わたしが口を開くと、主はこの巻物をわたしに食

べさせて、言われた。『人の子よ、わたしが与えるこの巻物を胃袋に入れ、腹を満たせ』わたしがそれを食べると、それは蜜のように口に甘かった。』(エゼ3・1-3)、また黙示録には「そこで、天使のところへ行き、『その小さな巻物をください』と言った。すると、天使はわたしに言った。『受け取って、食べてしまえ。それは、あなたの腹には苦いが、口には蜜のよう甘い』わたしは、その小さな巻物を天使の手から受け取って、食べてしまった。それは、口には蜜のよう甘かったが、食べると、わたしの腹は苦くなった。』(黙10・9-10)とある。みことばを食べるとはどのようなことなのか、とにか、専門的な言葉については聖書学者にお任せして、わたしたちは、日本語に訳された「新共同訳聖書」に書かれた「みことば」を通して、実生活にどのように生かされているかを紐解いて行きたい。

## +KABAYAN SEKSIYON+

### Ang Kagandahang Bunga ng Pananampalataya

Sa maikling salita, ang pag-asang ito ay nangangahulugan ng pagsampalataya sa Diyos "nang buong-puso, nang buong-kaluluwa at nang buong-pag-ibig" at pagtitiwala ng ating sarili sa Kanya sa pag-ibig. Ito ang mga bunga ng Pananampalataya at Kaligtasan. Ngunit ang pananampalataya ay hindi gaya ng "isang kahon ng mga kasagutan" hindi ito isang "bagay" na hawak natin, na iniingat at inaari. Bagkus, ang tunay na pananampalataya ay isang lakas na nasa loob natin na unti-unting bumabago sa ating pang-araw-araw na mga kaisipan, mga pag-asa, mga asal at pagpapahalaga sa pamamagitan ng kapangyarihan ng Banal na Espiritu ni Kristo. Sa katawagang panrelihiyon, nalalaman natin na kailangan ang pananampalataya para sa kaligtasan-ito ang "simula ng ating kaligtasan". Sapagkat hindi kinalulugdan ng Diyos ang hindi nananalig sa kanya. Mula sa ating karanasan, napagtatanto natin na ang pananampalataya ay nagdudulot sa atin ng mas ganap na buhay na maisasalarawan sa tatlong pangunahing pagpapahalaga: ang tunay na personal na kaganapan sa pagkatao, ang kalayaan at ang kaligayahan. Kaganapan sa Pagkatao- Ang pananampalataya ay isang paglago sa personal na kaganapan sa pagkatao sapagkat tinutulungan tayo nitong "iwanan ang mga asal-bata". Nililina nito sa atin ang pangunahing katapatan sa harap ng Diyos at tao sa pamamagitan ng pagmumulat sa atin sa mga sakripisyon hinihingi ng tunay na makataong pag-ibig. Ini-uugat nito ang ating pagkilala sa sarili sa katotohanang mga anak tayo ng Ama, na tinubos ng Dugo ni Kristo ating Tagapagligtas, at kinasihan ng kanilang Espiritu Santong nananahan. Kalayaan- Ang ating pananampalataya kay Kristo ang nagpapalaya sa atin sa pagpili sa "dilim kaysa liwanag", "kalugdan sila ng tao kaysa kalugdan ng Diyos". Kung wala tayong pananampalataya sa Diyos, nasa awa tayo ng "nakapupukaw sa masamang pita ng laman, mga nakatutuko sa paningin, at ng karangyan sa buhay" kung kaya "walang puwang ang pag-ibig ng Ama sa atin". Binabalaan tayo ng Banal na Kasulatan: "Mapaparam ang sanlibutan at lahat ng kinahuhumalingan nito; ngunit ang sumusunod sa kalooban ng Diyos ay mabubuhay magpakailanman".